大阪市立大学土木会通信

土木会通信 第二号
発 行 日：2008年5月19日
発　　行：大阪市立大学土木会事務局
発 行 人：田中正治
編集担当：黒山 泰弘 日野 泰雄 吉田長裕

会員相互の交流 ―若い世代へ―

土木会会員の皆様にはお元気でご活躍のことと存じます。日頃は土木会の活動にご支援、ご協力をいただき有難う御座います。

さて、昨年の6月29日の土木会総会において湊前会長の後を受けて土木会会長に選任されましたので一言ご挨拶申し上げます。「同窓」とは、「岩波・国語辞典」によれば、「同じ学級または同じ先生に学んだこと」とあります。「同窓生」という同じ大学（学部、学科、研究室等）あるいは会社に属していた者に何となく親しみ、心安さを覚えるのは、その根底に共通した話題（例えば、先生のこと、授業／講義のこと、研究室のこと、卒論のこと、キャンパスのこと等々）、知り合い、経験（体験）があるからだと思います。

土木会は都島工専、大阪市立大学の土木関係の卒業生による、土木を共通基盤として、その上に同じ学年の（同じ授業を受けた）者の集まりを柱に、同じ研究室の（同じ先生の薫陶を受けた）者の集まりを梁とし、その他いろいろな組み合わせ材で構築された異なる世代間の交流を図る団体（同窓会）です。

以前から『「土木会の活性化」のためには、とりわけ「土木会行事への若い世代の参加」を促さないといけない』と異口同音に言われてきました。ただ、該当する若い世代には、そのような思いは少ないと見えて、状況の変化、改善は見られませんでした。これを一挙に解決する妙案を考えつければよいのですが、これまでの会長はじめ役員の方々の頭を悩ましてきた問題の解がすぐに見つかるとは思えません。また、物事がそんなに簡単に進むとは思えません。地道な活動、小さな事を一つ一つ積み上げていくより仕方ありません。

同年次の集まりは随時行われているようです。例えば、“卒業○年を記念して恩師を招いて開催した同級会”のように。また、研究室を同じくする者の集まりも毎年行われていると聞いております。さらに、同じ勤務先／職場の者の会合も面白いでしょう。このような集まりが幾つもできれば、参加した人にとって、同世代は勿論、世代を超えた交流が進んで顔馴染みが増え、これ迄は知った顔がないため、何となく遠くにあった土木会の行事が、多少とも身近になって、それに違和感、疎外感無く参加できるようになると期待されます。

世代を超えた顔馴染みができれば、所謂人脈が形成できます。他の人を知り、他の人に知られることは、「同窓の誼みで」という言葉を前に置けると言う事です。その良い面を活用すれば、以後の活動に少なからず役立つと思います。ただし、悪い面としては癒着、情報の不正なやりとり等の誘惑がありますが、これらは断固排除しましょう。いずれにしろ、若い世代の方々には、幅広い交友関係＝人脈形成という無形の財産を築くためにも、土木会を活用していただきたい。

学科の改組、再編への対応

平成21年4月から土木、建築関係の3学科（都市基盤工学科、環境都市工学科、建築学科）が再編・改組されて、2学科（都市学科、建築学科）になるという話を聞いております。時代・社会の変遷・要求、学問・技術の成熟・進展等によって学科の再編・改組は止むを得ない面があります。そこに、大阪市、大阪市立大学の経営、財政の事情が別の要因（最大の要因かもしれません）として加わり、その動きを加速させるようです。

新しい2学科の内容、構成は未だ公表されていませんが、旧土木工学科を母体とする都市基盤工学科と環境都市工学科の名前はなくなるようです。学科の組織体制が変ろうとする時、土木関係の卒業生で構成される土木会はどのように対応すればよいか。環境都市工学科には別に同窓会組織が存在しており、それとの関係も考慮しなければいけません。残された1年余りという時間は長いようで短く、早急に対応策を取り纏めなければいけません。役員会での議論は勿論のこととして、皆様方からご意見をいただければ幸いです。

同世代のあるいは世代を超えた会員の交流の場が賑やかに持たれていることが、土木会の活性化の大本です。そのための場として土木会の諸行事、ホームページ、土木会通信等が用意されております。大学（学科）行事への参加、支援もその機会として捉え、会員の皆様の積極的な参加をお願いします。一方、学科の再編・改組への対応について、会員諸氏のご意見をお待ちしております。会員諸氏におかれましては、心身とも健康にご留意のうえご活躍されることを祈念しております。

会長就任にあたって

倉田　克彦（第十一代会長　Ｓ４２）

昭和４２年土木工学科を卒業、同４４年に前期博士課程修了、河海工学研究室助手、講師、東洋建設（株）を経て現在、NPO法人アマモ種子バンク

© CE-OCU OB Association. http://gra.civil.eng.osaka-cu.ac.jp

大学の近況

主任報告

大内　一（Ｓ４６）

卒業生の皆さんお元気で活躍のことと存じます。一昨年32年間勤めた大林組を辞し、平成18年４月より本学大学院都市系専攻教授として着任いたしました。昨年４月より学科主任を務める新米ではありますが、本学科ならびに大学の近況を報告させて頂きます。

学科再編

工学研究科／工学部としての最大の懸案はＨ21年度の学科再編です。工学部は現10学科から６学科に統合再編されます。Ｈ19年度は北田俊行教授が都市系専攻長ということもあり、この問題に一丸となって取り組んできました。

当面の課題は、現環境都市工学科と合体する新「都市学科」の素案作成です。特長を持たせるため、都市デザイン・環境創生・都市安全領域を３本の柱に横断的な教育体制を構築すべく作業を進めています。ご承知の通り土木教育については長年の歴史があり、地歩を固めてきました。一方、環境都市学科は、新設以来７年を経てようやく学科としての教育体制を固められてきました。従って、教育カリキュラムの作成や学科運営体制など解決すべき課題を種々抱えていますが、今後とも、両学科の発展的統合の実現に向けて共同作業を進めているところです。

土木会の将来

「都市環境」に纏わる具体施策の大半は、公共事業として扱うものであると考えます。その点で、機能性・経済性重視から持続性(Sustainability)重視に変わりつつある今日、この度の学科再編も全体としては避けられない方向なのかもしれません。一方、両学科のＯＢ会の将来はどうなるかという問題があります。現在のそれぞれのＯＢ会に加え別途に新設する方法もありますが、両ＯＢ会を統合して一本にする方法もあります。裾野が拡がり、享受する部分が増えるという発展的な捉え方です。大学の現況をご理解頂いた上で、今後、皆さまにご判断頂くべき事と考えております。多様な側面からご検討頂ければ幸いです。

学生の進路状況

学生の進路はＯＢの皆さまのご尽力もあり、順調に決定していますが、少し変化も出て来ています。４回生の内定状況ですが、進学は他大学への４名を含め14名、公務員５名、民間10名（うち建設関係３名）です。本学科関連の都市系専攻前期博士課程修了予定者については、本学後期博士課程への進学１名、公務員１名、民間12名（うち建設関係７名）、未定若干名です。他大学大学院への進学増加と他産業への就職増加が強まっているようですが、本学大学院の充実と土木分野の将来を考えると、些か複雑な想いもしないではありませんが、ＯＢの皆様からのアドバイスをお願いしたいと思っています

国際交流

構造及びコンクリート工学研究室

斉藤　尚（M2）

平成19年９月２日～５日までゼミ旅行として初の試みの海外訪問をすることになりました。目的は海外大学の学生および研究室との交流と海外の建設事情の視察です。訪問したのは同済大学の孫利民教授の研究室です。交流会では、お互いの研究室で行っている研究内容について英語で発表を行いました。

同済大学は国家教育部直属の重点大学ということもあり、実験室の規模が市大よりもはるかに大きいことに驚きました。実験室が大きい分、供試体の大きさも5mくらいのビルの模型を作製しており、日本とはスケールが違うと思いました。日本と違う点として、中国は地震が起こりにくいこということが挙げられます。現在、次々に高層ビルの開発が進んでいるということもあり、風の影響が大きいと思われます。そうしたことから風洞実験に力を入れていると感じました。

今回の経験から、まずは英語を勉強していかなければいけないことを痛感しました。また、日本だけではなく、世界での土木技術の現状などについても知っていかなければいけないと思いました。

応用構造工学研究室

小松　資典（M2）

平成19年８月22日から24日に韓国のInha大学で開催された第９回韓日鋼橋ジョイントセミナーに参加し、研究成果の発表と研究交流を行ってきました。

韓国では１つの実験・研究を始めたら無我夢中で他のことは一切せずに最後までやり遂げるそうで、研究に対する取り組み方の違いに驚きました。一概には言えませんが、日本の学生より研究にかける熱い思いを感じ、私も研究に対してより情熱を持って取り組もうと思いました。また、韓国の学生は非常に社交的で誰とでも話せる人が多いという印象を受けました。学生だけで二次会に行った時には、韓国での観光スポットやお互いの文化について積極的に話しかけてきてくれ、場を盛り上げてくれました。おかげで日本から来た学生はみな楽しい時間を過ごすことができました。ちなみに韓国人は酒が強いと聞いていましたが、本当に強かったです。

英語で発表を行う機会が今後もあると思うので、その際には今回の経験を生かしたいと思います。

© CE-OCU OB Association. http://gra.civil.eng.osaka-cu.ac.jp

平成19年秋の叙勲で木下成様が受賞

平成19年11月3日付け秋の叙勲において、鉄道部門で技術の発展に貢献されました木下成様（S 34）が、叙勲の栄に浴せられ、伝達式が、11月9日執り行われました。大阪市大土木同窓の先輩が技術分野で評価されたことはたいへんおめでたいことであり、皆様方に報告した次第であります。（報告=柿木 浩一（S 46））

叙勲名　旭日小綬章

叙勲者　木下 成

業績概要

阪急電鉄常務取締役、能勢電鉄取締役社長、会長を歴任、長年にわたり鉄道経営に関与され、安全安心快適な社会に信頼される鉄道輸送に貢献された。阪急、神鉄、能勢電の新線建設、線路改良、駅の改築等鉄道土木技術の開発、指導に貢献をされた。特に、平成7年阪神淡路大震災においては鉄道の早期復旧と耐震構造に指導的な采配を発揮された。

故 事口寿男君を悼んで

倉田 克彦（S４２）

親しい友・事口寿男君は突然に幽明境を異にしました。平成19年11月23日の夜のことで享年65歳でした。訃報を聞いた時は驚きと信じられない気持ちが相半ばし、親しい友が逝くということは、これ程までに心寂しいものかと、暫くは虚ろな気持ちでした。

事口君は昭和44年に修士課程を修了し、橋梁研究室の助手として研究者・教育者の第一歩を踏み出しました。その後、彼は大同工業大学へ移り、教授として研究・教育に情熱を注ぎ、また副学長を務めて大学運営の一端を担うなど、彼の功績は大同工業大学から名誉教授の称号を授与されたことからも推して知るべしです。彼が、信条とする“学生には愛を持って接すべし。”を誠実に実践したことも忘れられません。彼は、定年までの2年ほどの間にこれ迄の研究・教育の成果を纏めて残したいと、気負うことなく淡々と話してくれたことがあります。それを叶えることが出来ず、さぞかし心残りだったに違いありません。

家族を、友人を、学生を事口君ほどよなく愛した男はいないでしょう。二言目には「うちの奥さんが・・・」あるいは「俺の息子が、娘が、孫が・・・」と、良き家庭の長(おさ)としての慈しみ溢れる口調でした。また、「お前らなあ、何ごとも愛ですよ。・・・」、「お前らの中に離婚した者はいないな。よいこっちゃ。」とも。学生時代の応援団長という経歴もあって、細やかな気遣い、心配りに長けた、心優しい友でした。

入学以来45年を超え、名古屋で何回も杯を取り交わした繋がりは、突然の終焉を迎えても、集いの度に何故彼はいないのか、「待たせたのう」と遅れてやって来るのか等、彼の顔を探させるのです。しかし、もう再び彼は顔を見せてくれません。語りかけてもくれません。出来る事は心の中で彼との絆を切らないようにすることだけです。

事口君、寂しくなりました。合掌。

イベント開催報告 第18回市土会ゴルフコンペ

第18回の市土会ゴルフコンペが、平成19年5月26日（土）、岬町の大阪ゴルフクラブで開催されました。今回は秋から春に時期を変更して行ないました。当日は、芦田会長以下26名の参加者が五月晴の中、多くのバンカーと砲台グリーンの攻略を目標にスタートしました。S31年～H4卒までの同窓生が年齢と体力にあわせて、楽しくプレーと親睦を図る事ができました。

熱戦の結果、島田昭氏（S 42）がG 96、S 73・2で見事優勝されました。また、ベスグロ賞は水谷昌弘氏（S 45）がG 80で獲得されました。

今回は、会長の尽力により、久々や初めての方も多く参加頂けました。また、平成卒の同窓として初めて谷口氏（H4）が参加されました。今後、平成卒業の参加が増えていく事を期待致します。

次回も多くの方のご参加お待ちしています。参加に興味のある方は事務局又は幹事までご連絡下さい。（幹事：住吉（S 46）・岡田（S 60）・吉田（S 62））

© CE-OCU OB Association. http://gra.civil.eng.osaka-cu.ac.jp

イベント開催報告
第22回東京支部総会

恒例の大阪市立大学土木会東京支部総会が平成19年11月16日（金）に東京日本橋の“サリュコパン”で開催されました。

今年は、大学から東京支部のＯＢでもあります大内教授に御臨席いただき、28名の出席がありました。笠木勝弘東京支部長（Ｓ42）の挨拶で始まり、大内教授から大学をとりまく近況をお話しいただいた後、大原春彦様（Ｓ35）の乾杯で懇親や情報交換などが始まりました。そして、欠席の方からの近況報告や中村龍由幹事（Ｓ60）からの会計報告などの後、稲垣紘史様（Ｓ40）の手締めで閉会となりました。今年は、東京駅から少し離れましたが、卒業間もない若手の参加もあり、活気のある総会となりました。

平成20年は、“土木の日”（11月18日（火））に開催の予定です。関東地区にご在住の方、また、出張等で東京においでの方は、ぜひご参加ください。なお、転勤等で関東地区に異動になられた方は、東京支部幹事までご連絡ください。

（幹事：今井一彦（Ｓ54））

寄稿 土木会50周年

『次世代に誇れる公共施設を残すために』

玉井 義弘（Ｓ３２）

土木会創立50周年おめでとうございます。半世紀といいますと、私達も社会に出て半世紀になり長いものです。例えば、近代水道百年とよく言いますが、そのほぼ半分に関わってきたと思うと、矢張り長くて重いものです。私達は、多くの先人達が築いてこられた、世界に冠たる信頼性の高い水道を引き継いで、その後の急激な水質汚濁や水需要の急増、漸減と目まぐるしい変化に対応してきましたが、それらの選択が正しかったかどうか、今自問自答しています。

ところで、学生時代の思い出は、諸々のことが懐かしく思い出されます。年一回のボート大会に土木として参加したり、土質研の可愛い女性達との交流やダンスパーティを主催して結構稼いだり、貧しいながらも楽しい思い出ばかりです。製図ではよく徹夜をしましたが、なかでもほろ苦いながらも何となく愉快な思い出があります。それは、扇町公園のあの古橋や橋爪選手が優勝した扇町プールの近辺を平板測量して、それをケント紙に書いた時です。クラスは13名の少人数でしたので、それぞれ同じ図面を書くなら分業しようということになり、10枚余りの用紙を並べて、線を引く人、色を塗る人、字を書く人とそれぞれ得意な人がその部分を担当するという方法で仕上げました。完成図を見た清水先生は、なかなかよく出来ている、それぞれ百点満点である、しかし10人の手が入っているので、一人一人は10点だと言われ、一本取られたという思いでした。

ところで、最近非常に気になることがあります。かなり以前から、多くの大学で学科に土木という言葉が少なくなり、その代わり都市環境、都市工学、環境工学、都市基盤等の名称になっていますが、この中でどれが従来の土木工学の役割を果たしているのか戸惑います。土木という言葉は、一見茫洋としていますが、幅広く、奥の深い、いかにも地球と上手に付き合う知恵を学べるという気がします。

以前に、明治時代の土木の重鎮廣井勇博士の評伝を読んだ時、その中に土木学会設立時（大正３年）の初代会長古市公威博士の挨拶文があり、感銘を受けました。例えば「――本会会員は指揮者たるの素質なかるべからず――、――指揮者を指揮する人即ち所謂将に将たる人は土木において最も多しとす――――、――――土木の技師は他の専門の技師を使用する能力を有せざるべからず――」等々です。この初代会長の精神は、古いようですが決して昔のことではなく、比較的最近まで受け継がれてきたといえます。私の経験からも、色々な職場で非力ながら自然とプロモーターやコーディネーターの役割を果たしてきたように思います。質のいい公共施設を構築していくためには、いずれの分野でも、必ずまとめ役や調整役、あるいは推進役が必要です。必ずしも名称に拘るわけではありませんが、現在よく使われている学科名では、学生も他の電気、機械等と同様に一分野としか見ないのではないでしょうか。取り越し苦労であればいいのですが、気掛かりです。

一般の品物の場合、その選択権は消費者にあるので「安かろう悪かろう」でもいいのですが、公共施設は国民一人一人にとって最も身近で、しかも自分の意思で選択できません。したがって、公共事業に携わる人、特に技術者は、官学産を問わず次世代に誇れる施設を残す責務があります。卒業間近に橋梁の橋先生が「社会に出て最初の10年間の生き様が、その人の人生を引きずる」といわれたことが、今にして心に響きます。土木会の若い世代の方々、何事にも誇りと情熱を持って取り組んで頂くようお願いします。

写真（土木学会）＝古市公威（1854～1934）東京帝国大学名誉教授。工科大学長・土木学会長・工学会の会長として、日本近代工学ならびに土木工学の制度を作った。

© CE-OCU OB Association. http://gra.civil.eng.osaka-cu.ac.jp

特別企画 『10年ひと昔で強める同期の絆』

10年ひと昔　長いようで過ぎてみると短い　外面の変化は
隠しようがないけど、心根は卒業の時のまま　その積み重ねで気がつけば〇年
そんな区切りの年を迎えられた学年の同窓会の様子を語っていただきます
毎年区切りの年はあります　次はあなたの学年ですか？

三八会について

林　正造（Ｓ４２）

私達は、昭和38年に入学し、1、2回生を杉本学舎教養学部、3回生を扇町学舎、4回生を新築なった杉本学舎工学部にて勉強しました。したがって、扇町学舎を知る最後の学年次です。私事で恐縮ですが、扇町学舎は母が戦前に学んだ手芸女学校を引き継いだもので、今は亡き母と何かの巡り合わせと話し合った記憶があります。

扇町学舎に通うには梅田から東梅田商店街の繁華街を通ります。試験が終わった時などは、商店街の中にある「アルサロ」に大勢で学生服で繰り出し、中に入ったらボーイが「学生服では困るので脱いでください」といわれ、脱ぐとランニングシャツしか着ていないものが2、3人いて、ボーイが「これを代わりに着てください」と言って、ボーイのワイシャツを持ってきてくれました。それでも最低料金で最終まで飲んで踊って楽しみました。

フランク永井の歌一三、八〇〇円（昭和32年）が流行ったのは私の中学時代ですが、10年後に就職した私の初任給は一八、三〇〇円でした。歌の文句と数字が一緒だったので鮮明に覚えています。急成長する前の時で10年経ってもあまり変わりませんでした。また、大学の授業料は年間で九、〇〇〇円。他の国公立の授業料は一二、〇〇〇円。大阪市立大学は大学の中で全国一番に安かった。次年次からは一二、〇〇〇円に値上がりし、一番安い授業料でも私達の年次が最終でした。それでも、母からもらった半期の授業料四、五〇〇円を使い込み、滞納通知が自宅に届き、母にこっぴどく叱られたのを覚えています。大阪万博が一九七〇年に開催され高度成長を続けていくことになります。しかし、40年経ったいまバブルはとっくにはじけ、金利ゼロ、ゼロシーリング・マイナスシーリングの状態が続き、地球温暖化の進行が急速になって何か重苦しい世の中になっています。

三八会の名称は卒業後なんとなく決まりました。昭和38年に卒業された方には何の承諾も得ていませんが、私達の卒業年次が昭和42年であまり数字が良くありません。また、一緒に勉強してきたもので2、3卒業が遅れたものもいましたので、参加資格は昭和38年に入学したものとしました。石山寺、福井、塩屋、賢島等1泊2日で開いた同窓会が思い出されます。最初の頃は、旅館に着くなり、囲碁を始めるもの、マージャンを始めるものと学生気分がまだ残っていました。三十年ほど続いていた三八会もここ十年ほど途切れていました。二〇〇六年三月、前川満彦君が急逝し、葬式の参列した三八会のメンバーで再会を約しました。二〇〇七年七月大阪での開催でしたが、関東、名古屋からも参加してくれ、久しぶりに旧交を温めました。その席で、

「今年は三八会40周年、秋にでも一泊でどうや」「場所はどこにする?」「中間の名古屋あたりやなぁ」「そしたら、知多半島の先端の師崎にしょう」「中部国際空港を見学して行ったらどうや」

ということになりました。

去年11月9日、10日に三八会の40周年を知多半島の先っぽの師崎（もろさき）で開きました。関東方面に住んでいるものもいますので、名古屋駅に9日の午後に集合し、旅館の送迎バスで知多半島を南下し、途中中部国際空港を見学しました。14名集まり楽しく過ごしました。現役で頑張るもの、再就職しているもの、年金生活するものといろいろで、欠席者の近況を報告し、飲んで歌って大盛況でした。翌日は、観光組とゴルフ組にわかれ、観光組は、熱田神宮、名古屋城、徳川美術館を回ったとのこと。昼食には「ひつまぶし」を蓬莱軒屋の本店で40分待たされて食べたそうです。ゴルフ組は、事口君の地元の半田ゴルフリンクスでプレーしました。当日は晴天で風も無く絶好のゴルフ日よりでした。

この二週間後、事口壽男君が急逝しました。享年64歳。

西尾和久君の追悼の詩、

霜月の　宴のあとに　友は逝く
君はまた　友より先に　あの世への
道案内を　かってでたのか

心よりご冥福をお祈りします。（合掌）

また、年頭の挨拶で倉田克彦君からもらった一句、

正月や　冥土の旅の　一里塚

41年目を迎えた三八会、人生80年、毎年新年会を大阪で、5年か10年ごとに一泊どまりで各地を回り、三八会が還暦を迎えるまで楽しく行きましょう！

最後に私も一句、

三八会　還暦になるまで　楽しもう

© CE-OCU OB Association. http://gra.civil.eng.osaka-cu.ac.jp

趣味と健康

久保　元生（Ｓ５２）

大学を卒業して、29年があっという間に過ぎてしまった。卒業した昭和52～54年頃は、オイルショックで公務員、民間企業の採用も厳しい時代であった。当時の就職に当たって、先生方のご苦労も相当なものであったと記憶している。私は、橋梁研究室を無事卒業し橋梁会社で設計業務に携わってきたが、例の談合問題で会社の業績は悪化の一途をたどり会社の縮小と同時に設計部から新規事業部、そして営業部への配属となった。一昨年には営業部をターゲットとした2回目のリストラが実施された。平成十九年一月末橋梁業界に別れを告げ「猿の枝渡り」ではなく次の就職先も決めずに退職を決行した。

退職十日後に友人の紹介で新しい職場（社団法人近畿建設協会）が見つかり仕事も、近畿地方整備局第二京阪道路事業の低入札工事物件（鋼製橋脚、鋼上部工）の施工プロセス管理補助業務で今までの経験が生かせる仕事と非常にラッキーであった。第二京阪が終了すればどのような仕事が待っているか判らないが“人生健康なら何とかなるだろう”と気楽に考えることにした。幸い子供も無事成長し、人生54年が過ぎ定年後の人生設計をどのようにするか考えるようになった。定年後に趣味を見つけているようではどうしようもない。趣味は、釣りであったが、50歳で設計部を離れた時にゴルフにはまってしまった。

釣りは一人で気楽に行けるが、ゴルフは、何人かで回らなければならない。しかし、周りを見渡すと大学の先輩、後輩、業界にも沢山いるので老後誘う相手に苦労はないようである。年齢的には、まず80歳を目標に健康でゴルフができればと考えている。ゴルフ会員になり月例に出かけると70歳以上の方が元気よくクラブを振り回されているではないか。定年後は、先輩や友人と週一の平日ゴルフを楽しみたいと思っている。

長くゴルフを続けるためには、健康第一である。去年の健康診断で血糖値が許容値オーバーとなり、「糖尿病」との診断結果が出てしまった。これには少しショックを受け、80歳まで健康でゴルフができるかどうか判らない、とにかく健康を維持する努力をしなければならない。そこで、まずは歩くことから始めようと決意し、毎日歩くようにした結果、四ヶ月でなんとか体重を75kgから68kgへ減量することができた。65kgを目標に歩くことで健康を維持するよう頑張りたいと考えている。

ゴルフのドライバーの方向性、パターを良くするために失業中には、近眼の手術（インントラレーシック）を行い視力は○・○四から一・二○に回復した。まだパター上達にまでは達していないがそのうちに効果がでることと期待している。ある本に、老後ボケないためには、四つの趣味を持つことが必要であると書かれていた。後二つ趣味を見つけようとしている今日この頃である。ゴルフの心残りは、橋梁研同窓会会長、クラブの先輩の事口先生とご一緒にプレーすることが出来なったことです。ここに事口先生のご冥福をお祈りいたします。

卒業後30年を振り返って

東條　和夫（Ｓ５２）

先日、数年ぶりに同窓会に出席した。昭和48年入学組の恒例行事として毎年年末に開いている。同窓生の前田氏が、本業以外に飲食店経営を手がけていて、会場はいつも彼の店だ。集まったのは11人で、頭髪の変貌などが30年の歳月を感じさせる。

近況はいかがかといえば、時代の流れなのか転職者が多い。そういえば、入学のころは日本列島改造の建設ブームで受験は厳しかった。その後景気が冷え込んで不況になり、卒業の頃は就職難であった。それでも公共事業や建設業は不況の影響が少ないためか、卒業生の多くが建設業に就職した。

私はといえば、先生のアドバイスを振り切るようにして、そのころ有望業種となってきた情報処理の仕事に就いた。情報処理とはいっても、大気汚染の計算などを行う環境コンサルタントのような仕事をしていた。その公害問題は今日では、地球温暖化防止が叫ばれ、環境都市工学科の設立など脚光を浴びている分野である。当時の仕事は1台の大型コンピュータを中心に回っていて、他のジョブ（計算）のプライオリティが自分のジョブより高いと仕事が進まないので、端末画面にかじりついていたように記憶している。

そのようにして卒業後は、土木分野や大学とのつながりがなくなっていたが、人生とは不思議なものである。卒業後5年で転職したことで、同じ工場敷地内に勤める市大同窓生と再会、その後建設コンサルタント会社に移ってからは、専門分野の関係で市大の計画研究室とつながりを持つようになった。

異分野への就職、若くして転職、土木の先輩諸氏から見れば「身勝手な親不孝もの」ということになろう。結果として、土木業界に舞い戻ってきて大学に世話になっている。「最初からそうすりゃ良かったのにバカな野郎だな」という声が聞こえてきそうだ。

今は、同窓生の八尾氏が30年間がんばってきた会社で共に働き、専門分野にしている交通問題では、市大の日野教授と頻繁にコミュニケーションして支援をいただいている。

一度去ったのに、戻ってくれば暖かく迎え入れてもらえる。私にとって、大学・先生方・卒業生とのつながりは、欠くことのできない大切な存在となっている。これまでに、仕事を通じて卒業生の方とお会いする機会が多々ありましたが、市大土木出身と知らずにお会いした方もいます。この場を借りて失礼をお詫びいたします。

最後になりますが、お世話になった橋梁研究室には疎遠になってしまったことをお詫びするとともに、昨年末に亡くなられた旧橋梁研の事口先生のご冥福をお祈りいたします。

© CE-OCU OB Association. http://gra.civil.eng.osaka-cu.ac.jp

卒業、バブル、そして失われた10年を経て

橋田 雅弘（Ｓ６２）

世はバブル景気前夜といったところ。日本中に好景気の波が押し寄せ、リゾート開発、財テクなど景気のいい話があちこちで聞かれ始め、また「新人類」、「究極」、「マルサ」なんて言葉も流行っていた昭和62年、我々35名は卒業した。

あらためてこの20年を振返ると、我々が社会へ巣立って行こうとしたあの頃、いろんな意味で戦後日本における大きな転換点のひとつではなかっただろうかと感じている。まさにバブル景気の絶頂を迎えようとしていた時期だったばかりでなく、国鉄が分割・民営化されＪＲへと変わるなど、後に続く公社・公団の民営化・「公から民へ」といった行政運営変革の原点でもあった。

また、統計データを見ても興味深いものがある。87年、世界人口が50億人を突破する一方で、わが国ではこの年、いわゆる“ひのえうま”で出生数が戦後最低であった66年をはじめて割り込んだそうだ。人口増加とそれに伴う経済成長を前提とした社会システムに大きな変革が求められている今日だが、少子化問題が社会的関心を集めるようになったもこの頃である。

さらには、80年代後半からの円高の影響で日本人の海外旅行者が急激に伸びていったのもこの時期、86年には年間の渡航者数が五〇〇万人を超えたとのこと。

そう言えば、この頃、学生の海外旅行・卒業旅行というのも流行りだした。卒業旅行に海外とは、今では珍しくもないことだが、海外旅行ブームに乗って、多くの学生たちが卒論の提出とともに、世界各地へ旅立っていったものである。かく言う私も、若さもて手伝ってか、ブームに後押しされるように、とにかく外の世界に触れてみたい一心で『地球の歩き方』を片手に友人たちとヨーロッパ方面へと旅に出た。当時は勢いだけでの消費行動であったような気がするが、この時にしかできない貴重な経験ができたのも確かである。

花博会場（大阪市鶴見区）にて→
（左が当時の筆者.. ちなみに隣二人とも“wife“ではありません）

卒業旅行での一場面 →
（乗り継ぎのキンポ空港にて、真中が筆者）

↓阪神大震災で被災したメリケンパーク（平成７年２月）

話を当時の世相に戻そう。石原裕次郎や美空ひばりといった昭和を代表するスターがこの世を去り、元号も“平成”へと変わった。大阪では90年に「国際花と緑の博覧会」が開催された。開催に合わせ街並みもきれいに整理され、また、お祭りムードも高まって、それなりの盛り上がりであったと記憶している。ちなみに、妻と最初に会ったのが花博であり、私個人的には、良くも悪くも将来を左右する、まさに“分岐点”であった。

さて、好景気で少し浮かれた雰囲気の中、社会に出た我々を待っていたのは厳しい現実であった。花博が終わった翌年ぐらいから状況が一変していくのである。卒業後５年と経たないうちのバブルの崩壊、その後の景気停滞期“失われた10年”も経験し、その間にも景気の後退に追い討ちをかけるように起こった93年の大震災、地下鉄サリン事件などとやたら暗い出来事が立て続けに起こる。

そんな激動の時代を経験し、今に至っている我々62年卒であるが、こんな時代を生きていくからこそ仲間とのつながりが重要であると、最近とくに感じる。40歳を超え、社会的な責任も益々大きくなっている年代の我々にとって、同じ時代を共に経験した仲間とのひと時というのは癒されるものがある。

仲間と言えば、数年前、卒業後はじめて同窓会を開いた。関西在住の十数名ではあったが、懐かしい友とむかし話に盛り上がり、近況なども語り合えて、ほんとうに楽しい時間であった。卒業後20年が過ぎたこの機会に、また同窓会が開ければと願っている。62卒の皆さん、近いうちに是非集まりましょう。

リレー随筆
『土木工事に携わって』

荒木 治（Ｈ４）

2006年に黒山さんからスタートした
リレー形式のOBの近況報告

←松村 政秀(教員)←村山 泰男（Ｓ５０）←
廣瀬 彰則（Ｓ５４）←START：黒山 泰弘（Ｓ５０）

私は平成４年に学部（橋梁研）を卒業し、西日本旅客鉄道㈱に入社しました。

ＪＲ西日本は２００５年４月２５日、福知山線列車事故により１０６名の方々のお命を奪うとともに５００名を超える多くの方々にお怪我をさせてしまいました。現在、安全で安心信頼いただける鉄道となるよう社員一丸となり日々、安全管理に努めているところであります。

私はこれまで、保線業務、設計業務や施工管理業務と渡り歩き、昨年の６月からＪＲ西日本の建設工事部におけて鉄道高架化の計画業務に携わっています。このような業務を担当していることから当社の代表として、先月に宮崎県日向市で開催された全国連続立体交差事業促進協議会（以下「協議会」という。）に参加して参りましたので、そのお話をさせていただきます。

協議会には全国の連立事業を行っている関係自治体ならびに鉄道事業社が参加し、連立事業における課題の討議を行うとともに、最新の情報を知ることができる有意義な会議となっています。協議会は毎年、連立事業を行っている自治体の主催で開催され、今年度は東国原知事で有名な宮崎県日

© CE-OCU OB Association. http://gra.civil.eng.osaka-cu.ac.jp

向市で行われました。日向市は、宮崎空港から特急電車で約1時間、大阪からなら列車で約6時間かかる地方中核都市で、一般的な地方中核都市同様、車で行ける郊外の大型商業施設を中心に栄えている街のようでした。日向市での連立事業は、駅周辺の人口減少に歯止めをかけるためや街造りの起爆剤として進められたようで、日向市駅に降り立つと駅から見える町並みや人の数は予想どおりでしたが、駅舎は木とガラスを使い、非常に美しくそして優しく駅ホームを覆っていました。

協議会の説明には『自治体と地域住民の共生』という言葉が非常に多く使われ、この連立事業を中心とした駅周辺整備事業は町全体をあげて行われているとの話をされました。良くも悪くも小さな都市であることから、連立事業等は工事を行う側と市民が一体となって議論を交わす機会を持ち、子供を積極的に参画させることで、日向の町に愛着を持ってもらうように進められたようでした。そのため、非常に温かい駅やまちづくりが行われたように思い、これが公共事業の原点ではないかと感じさせられました。

写真＝日向市駅の外観　ガラスと木が使われ洗練されていました

そこで、自問自答。私が前職場で行っていた福井駅の連続立体交差事業（平成17年4月18日高架切換）は、本当に地域の方々に喜んでもらえる公共事業として進めることができたのか？

このような集まりの良いところは、鉄道事業の土木工事に携わる多くの同朋と話ができることです。懇親会では、新たな人とのつながりや他の事例を知る良い機会となり、土木工事に携わってうれしいと思える瞬間のひとつでもあります。

今回の協議会には福井県の方も参加していました。福井在勤中はやはり相容れない部分もあり、雑談などあまりすることもありませんでした。しかし、事業も無事完了し、約2年の月日が流れ、お酒が入ると昔話に花が咲くものです。これはチャンスと『地域住民との共生』話を福井県の方々に尋ねてみたところ、福井県と当社で行った高架ウォーク（参加者は約1，600名）の話になり、県民の方々や福井県の担当者が非常に喜んでいることを知り、私の福井での4年間が無駄ではなかったことや福井高架の開業を地元の方々が喜んでくれていることを知りほっとしました。

最後は少々自慢話になりましたが、土木社会人となり早15年、公共工事に携われたことを誇りに感じ、今後も土木社会人人生を歩んで行きたいと思います。

事務局よりお知らせ

ホームページの更新状況

土木会サーバーは昨年にハードウェアを更新してから、安定して運用されています。事務局では、会員サービスをよりよくするために、次の五点についてプログラムを更新しましたので、お知らせいたします。

（一）出向元と出向先を区別できるようにしました。

（二）勤務先と支店・部・課名、役職名を別々に登録できるようにしました。

（三）どの情報が更新されたのかわかるよう、自宅、勤務先、ウェブ情報の更新日を別々に記録するようしました。

（四）更新データが他の方にも伝わるように、ログイン後のページに変更リストを表示しました。

（五）会員相互の情報交換を促進するためにログイン後にショートメッセージを登録・閲覧できるようにしました。

新しいシステムになってから5ヶ月ほどが経ちますが、事務局や各自が変更した住所などのデータは200件近くにも及んでいます。今後さらに使いやすいシステムとするため、同じ職場の方に限ったリスト表示や評議員、役員への高度な検索機能の提供など充実を図っていきたいと思います。ご要望などございましたら、事務局までご連絡下さいますようお願いいたします。

お願い

名簿発行から三年が経ちました。この間、勤務先・住所等が変更されているにも拘わらず住所変更手続きがされていないため郵便物が届かないケースが多発しています。変更のあった場合は事務局まで連絡（電話・ファックス・メール）していただくか、各人で土木会のホームページの個人情報を変更していただくかどちらでも結構ですので是非変更方お願いいたします。また年度初めに請求しております会費は滞納されないようなるべく早い目にお振込みください。

第23回大阪市立大学土木会東京支部総会開催のお知らせ

平成20年度の第23回東京支部総会は、１１月１８日（火）の「土木の日」に開催の予定です。関東地区にご在住の方、また、出張等で東京においでの方は、ぜひご参加ください。なお、転勤等で関東地区に異動になられた方は、東京支部幹事までご連絡ください。

幹事：今 井 一 彦（Ｓ５４）
（株）建設技術研究所　東京本社
E-mail ： kz-imai@ctie.co.jp

平成20年度土木会総会・懇親会開催のお知らせ

平成２０年度の土木会総会・評議員会・懇親会を次の要領にて開催致したいと思います。会員各位におかれましてはご多忙とは存じますが、土木会発展と活性化のため多数の方々の参加をお願いいたします。

（一）日時　平成２０年６月３０日（月）
評議員会　18:00～18:30
総　　会　18:30～19:00
懇 親 会　19:00～21:00（会費　6,000円）

（二）場所　ホテル　アウィーナ大阪
（評議員会、総会は『金剛（東）の間』、
懇親会は『金剛（中西）の間』）
大阪市天王寺区石ヶ辻町19-12 TEL：06-6772-1441（最寄り駅：地下鉄　谷町線「谷九駅」または近鉄線「上本町駅」より徒歩8分）

© CE-OCU OB Association. http://gra.civil.eng.osaka-cu.ac.jp